

北海道学生研究会SCAN 第8回合同研究発表会

北海道学生研究会SCAN

2017年11月25日、札幌大学で北海道学生研究会SCANの第8回合同研究発表会が開催されました。

北海道学生研究会 (SCAN) とは

北海道学生研究会 (SCAN) は、学生と企業と地域を結び付けることで地域活性化に貢献しようと2010年に釧路公立大学で設立された学生たちの研究会です。Sophisticated Community and Academics for Networkingの頭文字から命名され、Scan (調べる) を通じて、企業・大学を含めた地域のつながりをよりよいものにしていくこと、地方の大学生が地域の問題について、学生ならではの研究成果を政策提言として発表していこうと活動が始まりました。

2016年度までは活動を始めた釧路公立大学で合同研究発表会が開催されていましたが、2017年度から札幌大学の学生たちが中心になって運営されるようになり、札幌市で初の合同研究発表会の開催となりました。

3チームに分かれて研究成果を発表



鈴木 淳一 札幌大学学長

合同研究発表会の開会式では、札幌大学の鈴木淳一学長が挨拶。「人口減少、大都市一極集中という時代の流れの中で、地方では多くの課題に直面し、明るい未来展望が開けずにいます。そうした中で、自らの研究活動を大学内に限定することなく、舞台を外に求め、よりよい



道内外から9大学の学生たちが参加

地域社会創出のために研究成果を発信していこうとするSCANの活動は称賛に値します。どんな切り口で地域発展を絡め合わせていくのか、大いに期待しています」と学生たちにエールを送りました。

今回の発表会には、北見工業大学、釧路公立大学、札幌学院大学、札幌大学、奈良県立大学、名寄市立大学、北海学園大学、北海道大谷大学、北翔大学の9校15チームが参加しました。研究テーマは「地域イノベーション」で、サブテーマに「地域特性の活用」と「スポーツコミュニティ」が設定され、3会場で各5チームが研究成果を発表しました。各会場に研究者と企業人で構成された審査員が配置され、発表内容に対しての質問や講評を述べるとともに、「地域イノベーション」というテーマを基軸に、発想の新しさ、実現可能性の高さ、これからの期待などの項目で評価し、3チームの優秀論文が選ばれました。

サブテーマ「スポーツコミュニティ」では、甲子園出場が地域活性化に役立つのかという視点で研究を行った、釧路公立大学の下山朗准教授（現奈良県立大学准教授）のゼミBチームによる「高校野球と地域活

性化～甲子園出場は地域を元気にするか～」が選ばれました。また、サブテーマ「地域特性の活用」では、次の2つの優秀論文が選ばれています。

「地域活性化に若者は必要。美唄市の滞在・交流人口の増大化への提言」

札幌大学の中山健一郎教授のゼミAチームによる研究で、10年間で約5,000人の人口減少、短大や高校の閉鎖による若者の流出、深刻な高齢化とさまざまな課題を抱える美唄市を対象に、滞在・交流人口を増やすための方策を研究しました。RESAS*を用いたデータ分析を行うとともに、地域住民などへのアンケートを踏まえ、「美唄市に若者を呼び込み、活気あふれる街づくりを図る」をテーマに、①駅前の「旭公園」敷地の複合型商業施設の建設と、②野外音楽フェスティバルの開催を提言しました。①では、チェーン店型の商業施設の誘致と図書館や映画館の併置を視野に入れ、利用客数の増加と滞在人口の予測を行いました。②では、すでに定着している道内開催の野外音楽フェスティバルの分析を通じて、美唄市における野外音楽フェスティバルの開催可能性を予測しました。

最後に、補論として留学生が美唄市の外国人観光客を増やすために、ばんえい競馬の魅力を伝え、ばんえい競馬の地方巡業や観光型巡業を提案しました。



中山ゼミAチームの発表

「シカの経済学－動物資源の経済学的評価」

奈良県立大学の下山朗准教授の研究室の学生たちによる発表で、「奈良公園の鹿」の経済的な価値について、産業連関表を用いて経済波及効果を推定しました。シカそのものの直接的利用価値と、餌用に販売されている鹿せんべいの売り上げやシカを保全・管理するコスト、関連イベントなどの間接的利用を算出。シカが存在することで約80億円の生産誘発効果があり、シカが地域資源として存在することの効果と観光関連産業の育成の必要性などを報告しました。

企業との接点を深める新企画

今回の合同研究発表会は、SCAN運営スタッフで代表の立石綾香さん（札幌大学）の発案で、「今年度から札幌開催となったことを機に、企業と学生の接点をより深める」ために協賛企業の活動紹介のほか、交流会が企画されました。

合同研究発表終了後、会場を移して協賛企業の(株)北海道銀行、札幌中央信用組合、北央信用組合、(株)北海道セキスイハイムから、各社が取り組んでいるまちづくりや地域振興活動の発表が行われました。

立石さんの狙いは、「昨年度までも企業との接点はありましたが、札幌開催となったことでより深く企業と交流を進められるきっかけをつくり、企業の皆さんと学生が直接接点を持つことで、次の研究活動にも生かしていきたい」ということでした。

その後、SCANでは2017年12月16日に釧路公立大学で「第6回インターカレッジフォーラム」を開催。優秀論文3作品の発表とパネルディスカッションが行われました。

これからも、学生の柔軟な発想で新しい地域づくりを展望していけるような提言を期待したいと思います。なお、今年度（2018年）も札幌大学にて合同研究発表会（第9回）が行われる予定です。

* RESAS（リーサス）

地方創生の取り組みを支援するため、産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約して可視化する地域経済分析システム。